

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 2023年度 自己点検・評価について

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは「基礎情報科学Ⅰ」「データで読む社会」「情報経済論」「メディア演習B」から構成されている。2023年度入学生は、本プログラムでは1年次の必修科目である「基礎情報科学Ⅰ」を履修する必要がある。履修者数は人間科学科79名、保育こども学科40名、国際社会学科50名、国際コミュニケーション学科37名であり、総計206名が履修した。</p> <p>「データで読む社会」「情報経済論」「メディア演習B」は2年次以上で履修する科目であるため、2024年度の履修登録期間前に学生の積極的な履修を促していく。</p>
学修成果	<p>2023年度末時点で「基礎情報科学Ⅰ」の206名の受講者の内、単位取得者は175名であり、85%が修得することができた。したがって、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は所定の水準に達していると判断できる。「基礎情報科学Ⅰ」は14クラスが共通のシラバスと成績評価基準で運営されており、効率的な学修成果の評価が行われている。この体制を2024年度以降も維持していく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「基礎情報科学」の学生アンケートの自由記述欄によると、AIデータサイエンス部分に関する情報はなかった。逆にいえば、順調に理解することができた証であるといえる。改善すべき点として確認できたのは、他のPC操作に関する記載のみであった。</p> <p>また、上述の通り、単位取得率が85%に至ったことも、学生が授業内容を十分に理解できていたことを示していると考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本年度対象となっている「基礎情報科学Ⅰ」は、1年次必修授業なので、他の学生に推奨することは無関係に全学生が履修する。しかし、授業評価アンケートでは、「この授業で新しい知識、ものの見方、スキルは身につきましたか？」という項目に対して、「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生が合計で97.2%に至ったことから、履修した学生はこの授業を含む本プログラムを履修する意義を見出していると推測される。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本年度対象の「基礎情報科学Ⅰ」は必修であるため、2023年度に入学した全員が履修した。</p> <p>2024年度に向けて、学内ポータルシステムにおいて、本プログラムの趣旨や修了要件、履修方法の詳細を配信し、学生に周知する。対象科目のシラバスには本プログラムの対象科目であることを明示し、履修を推奨する。</p> <p>また、履修登録前のオリエンテーション期間に、数理・データサイエンス・AIの知識を修得することの重要性を説明するとともに、本プログラムを紹介し、より多くの学生に受講してもらえるよう指導する。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2023年度末時点では、本プログラム開始から1年目であるため、今だ卒業者はない。そのため、相当する学生のキャリア意識を調査することは困難であり、また、本プログラムを修了した卒業者に対する社会からの評価を調査することも不可能な状態である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	これから、AIやデータサイエンスの需要はかなり増えると思われる。G検定など、積極的に学内で学ばせる必要性があり、本学の授業だけではカバーできない。既存の授業の内容を変更したり、新カリキュラムで新設科目を設置するなどの工夫が必要と思われる。また、産業界からの視点を教育プログラムに取り入れるために、どのような方法をとることができるかを検討し、可能な範囲でそれを実現することを目指す。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本学は、完全なる文系ではないが、基本的に数理・データサイエンス・AIとは縁のない学生が主体である。そのような学生に、いかにして、その楽しさや魅力を伝えていくかは、今後の課題である。「基礎情報科学Ⅰ」はデータサイエンスやAIを学ぶうえでの基礎的知識・技能を身につける科目であるため、この科目のみを履修した段階では、学生は学ぶ楽しさや意義を理解するまでには至っていない可能性が高い。2年次以降に履修する「データで読む社会」「情報経済論」「メディア演習B」では、実社会における数理・データサイエンス・AIの活用事例を紹介し、学生が本プログラムの科目を学ぶ楽しさを実感できる設計となっている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	もとより、文系学生が主体であるため、かなりかみ砕いてわかりやすい授業を各教員が心がけている。授業評価アンケートでは、「教員は学生からの質問や意見をふまえながら授業を進めていましたか？」という項目に対して、「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生が合計で83.0%に至った。今後も、よりわかりやすくするために努力を継続していく必要がある。